


分野	22	高齢福祉・障がい福祉	通番 35
施策	221	豊かな高齢期のための環境の充実	
5年後の目標		介護予防の取り組みが進み、生きがいや喜びを感じられる社会参加の機会が充実している。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	一般介護予防事業		介護	3	1	1	161,080,285	高齢介護課
					2	2		
					4	1		
事業の概要								
<p>高齢化の急速な進展により、介護保険・生活支援サービスの需要の増加が見込まれるため、介護保険制度改正に伴う新総合事業への移行を受けたNPO法人などの地域資源を活用した介護予防の取り組みを更に推進します。また、老人クラブなど地域主体の取り組みを支援し、身近な地域で介護予防に取り組める環境を整備します。</p>								


平成30年度の取組							
D (取組)	指標	介護予防教室等の参加者数				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
		目標	3,600	3,700	5,000	5,500	6,000
	205(平成26年度)	実績	4,726	5,557	6,194		
<p>・介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）が始まり、介護予防の啓発のための健康フェスタや、自分サポーター養成講座を実施しました。 ・老人クラブや一般の高齢者を対象とした介護予防リーダー研修の実施や、介護予防全体会や講師派遣を継続的に実施しました。 ・身近な地域での介護予防実施のために介護予防サロンに対する助成を行いました。継続的な実施のための支援を行いました。</p>							
介護予防サロンの様子							

施策の「5年後の目標」に対する評価						
平成30年度の達成状況						
C (評価)	評価指標	関連する評価指標			評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		元気な高齢者の割合			当市においては、65～74歳で要介護認定を受けていない人の割合は95%前後で推移しています。	196
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<p>・目標を大きく上回る参加者数となりました。健康フェスタや介護予防全体会などを通じ、介護予防への関心が高まっていると考えます。また身近な地域での介護予防サロンの実施により、参加しやすい環境づくりが進んでいます。引き続き、目標の達成と介護予防事業の内容の充実に努めます。</p>		
課題等	<p>・より予防効果が高い状況で取り組めるよう、早期からの介護予防への興味、関心を持ってもらうことが必要です。 ・身近な地域で継続的に活動を行うために、地域への動機づけや実施場所の確保を行っていく必要があります。</p>					

目標達成に向けての次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<p>1: 計画通りに進めることが適当</p> <p>・より早い時期から介護予防を実施するために、養成した介護予防リーダーやボランティアと共に自治会や老人クラブ、有志団体に働きかけ健康フェスタの実施や介護予防サロンの開設を促します。また介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）を実施する事業者等の連絡協議会等に参加し、事業協力依頼を行います。</p>

分野	22	高齢福祉・障がい福祉	通番 36
施策	221	豊かな高齢期のための環境の充実	
5年後の目標		介護予防の取り組みが進み、生きがいや喜びを感じられる社会参加の機会が充実している。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	高齢者健康・ 生きがいづくり推進事業		会計	款	項	目	129,529,874	高齢介護課
			介護	3	1	1		
事業の概要								
地域団体やボランティアとの連携により、高齢者の閉じこもり・認知症予防や生きがいづくりを目的としたカフェ・サロン等高齢者の集える場の整備を促進します。また、新総合事業における市独自サービスの実施を踏まえ、市独自サービスの担い手となる「くらしサポーター」や地域や介護施設でのボランティア活動を通じて、元気な高齢者の生きがいづくりとなる「地域お助けサポーター」、地域で自主的に介護予防に取り組む人材として「自分サポーター」を養成します。								


平成30年度の取組							
D (取組)	指標(～H29年度)	高齢者の健康・生きがいづくりを目的としたカフェ、サロン数				単位	か所
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	28(平成26年度)	目標	30	31			
		実績	30	32			
	指標(H30年度～)	介護サポーター養成講座(受講修了者数)				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
平成29年度 新規事業	目標			600	900	1,200	
	実績			301			
<ul style="list-style-type: none"> 自分サポーター、地域お助けサポーター、くらしサポーターの3サポーターの養成講座を行っています。 自分サポーターと地域お助けサポーターはステップアップできる仕組みとなっており、平成30年度は4名の人がステップアップされました。 地域お助けサポーターについて、施設での活動に限定されていましたが、在宅でのごみ出しサービスも開始し、サービス提供の幅が広がりました。 くらしサポーター養成講座については、前年度受講者が就職に結びつかなかったという課題を踏まえ、カリキュラムの内容や周知方法の見直しを実施しました。 					受講生の様子		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成30年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		元気な高齢者の割合	当市においては、65～74歳で要介護認定を受けていない人の割合は95%前後で推移しています。	196
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	<ul style="list-style-type: none"> 受講修了者数は、目標値を達成できませんでした。その理由は、自分サポーター養成講座は団体からの要望に基づき、講座を開催しますが、団体からの要望と本講座の内容のマッチングせず、開催に至らないことがあったからです。 平成30年度は地域お助けサポーター養成講座を7回実施し、58人が修了しています。修了者の内、47人がサポーターの登録をしています。修了者に対し、登録者の割合は高くなっています。 	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 受講希望団体の要望を精査し、受講しやすい受講時間・内容を検討する必要があります。 サポーター活動に関心を持っていただき、受講者が伸びるような仕掛けづくりが必要です。 			

目標達成に向けての次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>2: 進め方の改善の検討が必要</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 実施主体に実施状況の聞き取りを行い、受講時間・内容の見直しを行います。 現在のサポーターの活動を見える化し、発信していくことが求められます。 </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	2: 進め方の改善の検討が必要	<ul style="list-style-type: none"> 実施主体に実施状況の聞き取りを行い、受講時間・内容の見直しを行います。 現在のサポーターの活動を見える化し、発信していくことが求められます。
方向性	対応策等				
2: 進め方の改善の検討が必要	<ul style="list-style-type: none"> 実施主体に実施状況の聞き取りを行い、受講時間・内容の見直しを行います。 現在のサポーターの活動を見える化し、発信していくことが求められます。 				

分野	22	高齢福祉・障がい福祉	通番 37
施策	221	豊かな高齢期のための環境の充実	
5年後の目標		介護予防の取り組みが進み、生きがいや喜びを感じられる社会参加の機会が充実している。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	老人福祉施設等整備事業		会計	款	項	-	高齢介護課
			-	-	-		
事業の概要							
高齢者の生きがい・健康増進活動の拠点である老人福祉センター竹寿苑が、建築後40年以上経過し設備の老朽化が進んでいることから、介護予防などの機能を付加した新たな高齢者の福祉センターとして、移転も含めた再整備について検討を行います。							

平成30年度の取組							
D (取組)	指標	老人福祉センター再整備の検討				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	平成28年度 新規事業	目標	共生型福祉施設構 想と併せた検討	共生型福祉施設構 想と併せた検討	共生型福祉施設構 想と併せた検討	共生型福祉施設構 想と併せた検討	共生型福祉施設構 想と併せた検討
		実績	会議にて検討	会議にて検討	会議にて検討		
<ul style="list-style-type: none"> ・共生型福祉施設構想検討部会（全体会議）及び共生型福祉構想検討部内会議において、介護予防拠点としての機能を強化した老人福祉センターとして再整備できるよう、施設機能の移転を含め検討を行うとともに、今後のスケジュールを確認しました。 					竹寿苑外観		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成30年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		—		—	—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・共生型福祉施設構想検討部会にて再整備について検討し、今後のスケジュールについて確認しました。	
課題等	・京都府向日が丘支援学校改築計画の進捗状況の影響を受けるため、スケジュールが定まりにくい状況です。				

目標達成に向けての次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	1: 計画通りに進めることが適当 ・引き続き関係部局と調整し、共生型福祉施設構想検討部会にて再整備について検討を進め、計画を具体化していきます。